

【成果を出す組織を作るマネジメント】シリーズ

現代感覚に合った“やりがい”形成視点

強い組織、強い現場を作るための、やさしい現代マネジメント！

【“やりがい”と“働き方改革”】

“寝食を忘れる”程に没頭できる仕事を持つことは、やはり“幸せ”なのかも知れません。もちろん、それが過剰労働を生み、心身をむしばむことになっては元も子もありませんが、少なくとも、仕事に“やりがい”を感じることは、誰にとっても、どうでもよいことではないはずで

【特に問題になる“管理者のやりがい”】

そんな観点に立つなら、昨今の“働き方改革”発想に、“やりがい”が適切に組み込まれているかどうかは、再検証すべきポイントになるのかも知れません。

特に“部下の意識変化”から、予期せぬ形で“過剰労働”に陥りがちな“管理者”の“やりがい”形成は、組織の士気向上の上で、大きなマネジメント課題だとも言えるのです。

【“やりがい”は褒賞の問題なのか？】

ただ“やりがい”とは、いったい“どのような”ものなのでしょう。それは“報酬”や“認められること”で、実現するものだと、単純に捉え得るものなのでしょうか。

【“やりがい”の性質は時とともに変化する】

“働く意識”と同様、“やりがい”の性質も、『時の流れとともに変化している』という指摘は、今少なくともありません。目の前に“ニンジン”をぶら下げただけでは、やる気を起こさない現代人は、非常な勢いで増えて来ているからです。

【終身雇用感覚を“知らない”年齢層の増加】

その一方で、目先にぶら下げる“ニンジン”の性質を変えるべきではないかという指摘もあるのです。

昨今では、かつての“終身雇用”感覚を知らない年齢層も増加しており、企業現場の担当者が“求める”ものも、大きく性質を変えて来ていると言えそうだからです。

【マネジメント・レポートを購読しませんか？】

では、感覚を変えた現代人は、どんな時に“やりがい”を感じるのでしょうか。また、管理者の“やりがい”は、どう形成されるべきなのでしょう。ある経営者の気付きをレポートの形で、ご報告いたします。有料定期購読の方には、レポートを差し上げています。ぜひご一報ください。



“働き方改革”が話題になる中で、案外忘れられがちなのが“やりがい”形成のテーマなのかも知れません。個々の担当者の“やりがい”もさることながら、担当者の意識が変わって、負担が増える傾向にある“管理者”が、一種の“やりがい喪失感”に襲われているとも伝えられるからです。

では、どのように“やりがい”を形成すべきなのでしょう。そして、それは担当者と管理者では、どう異なるのでしょうか。ある経営者が“2度も目からウロコが落ちた”と言われる視点を、事例としてご紹介します。

中堅中小企業の皆様に、現代的な“人”マネジメントの視点から、重要なニュースやノウハウをお届けする月例『経営さぷりめんとニュース』に、ご意見やご感想をお寄せください！

行政書士・社会保険労務士へんみ事務所

TEL : 022-292-2351

FAX : 022-292-2352

URL : <http://www.henmi-adm.jp/>